

2018年 新規開催!

# 多文化社会コーディネーター協働実践研修 2018

## 多文化社会の課題解決に向けて

日本社会の多文化化が進展するに伴い、さまざまな問題が見られるようになっていきます。それらの問題は多岐の分野にわたり複雑に絡み合っていることから、問題解決には多様な人びとや組織の連携・協働が不可欠であり、またそのような連携・協働を推進する役割を担う専門人材が求められています。

そこで、多文化社会専門職機構では「多文化社会コーディネーター」を「あらゆる組織において、多様な人々との対話、共感、実践を引き出しつつ、「参加」→「協働」→「創造」の問題解決へのプロセスをデザインしながら、言語・文化の違いを超えてすべての人が共に生きることのできる社会に向けて、プログラム（活動）を構築・展開・推進する専門職」と定義し、認定事業を通じて多文化社会の問題解決に貢献できる人びとを輩出することに取り組んでいるところです。

今年度、多文化化する現場で働く実践者（実務家）を対象に、コーディネーターとしての力量形成を図るためのプログラムとして「多文化社会コーディネーター協働実践研修」を実施します。これまで多文化社会コーディネーターの実践研究に携わってきた当機構のメンバーと共に自らの実践を振り返り、コーディネーターとしての専門性を高めたいと考える方々のご応募をお待ちしています。

主催： 多文化社会専門職機構（TaSSK）

## ○ 概要

下記の期間・場所で集い、テーマについて考えます。さらに、参加者どうしが自らの実践を振り返り、実践報告・実践研究論文の作成を目指します。

日 程：	2018年 8月18日（土）10：30～17：30 2018年 8月19日（日）10：00～17：00 2018年10月27日（土）10：30～17：30 2019年 2月23日（土）10：30～17：30
場 所：	早稲田大学戸山キャンパス（予定）
対 象：	・自治体、国際交流協会、NGO、日本語教室、学校教育・社会教育、企業などで多文化に関する実践に取り組む組織の中堅スタッフ。 ・4日間すべての日程に参加できる方。
募集人数：	募集人数15人（最少実施人数10人）
テ ー マ：	各人の実践研究と並行して、下記のテーマについて参加者どうしで理解を深めます。 ・多文化社会をどう捉えるか ・多文化社会コーディネーターとは ・協働実践研究とは／実践報告・実践研究論文の執筆にあたって

## ○ 協働実践者（予定）

多文化社会専門職機構からは下記の会員が協働実践研究に参加し、参加者とともにテーマ・実践研究を深めます。

### 菊池哲佳（多文化社会コーディネーター）

多文化社会コーディネーター（多文化社会専門職機構認定）。公益財団法人仙台観光国際協会勤務。これまで主に外国人相談事業、外国につながる子ども支援事業、防災事業などを通じて多文化共生の地域づくり取り組んできました。今回の研修では、全国各地でコーディネーターとして活動する方々とそれぞれの実践を振り返りつつ、多文化社会についてあらためて考えることを楽しみにしています。

### 小山紳一郎（フリーランス・プランナー）

まちづくりに関するよろず相談業務のほか、明治大学大学院兼任講師、亜細亜大学非常勤講師、（特非）NPOサポートちがさきコーディネーターなど。

（公財）かながわ国際交流財団勤務時代には、多文化ソーシャルワーク実践者養成プログラムの開発や多言語情報流通に関する調査研究などに携わる。現在は、“農福商”連携（農業・福祉・商業の連携）など異分野横断型の事業コーディネートに関心を寄せる。多文化社会のソーシャルデザインについて参加者の皆さんと一緒に考えたいと思います。

### 松尾慎（東京女子大学）

多文化社会コーディネーター（多文化社会専門職機構認定）。東京女子大学現代教養学部教授。専門は、日本語教育、多元文化教育など。ブラジル、インドネシア、台湾で日本語教育に携わり、2009年より現在の職場に勤務。2014年6月に難民当事者とともに難民の日本語教室・活動（Villa Education Center）を立ち上げ、毎週日曜日、大学院生や修了生、学部生とともに活動を継続しています。先日175回目を達成しました。

### 山西優二（早稲田大学）

早稲田大学文学学術院教授、日本国際理解教育学会理事、多文化社会専門職機構副代表理事、かながわ開発教育センター代表理事、逗子市社会福祉協議会福祉教育チーム委員など。

専門は国際教育論、開発教育論、共生社会論。文化、地域、アート、ことば、お茶などの多様なアプローチから、多様な学びそして共生の文化をつくり出したいと思っています。

## ○ 日程等

### 《 1 日目 》

2018年8月18日（土） 10：30～17：30（昼休憩12：30～13：30）

10：30～12：30	13：30～17：30
<input type="checkbox"/> あいさつ <input type="checkbox"/> オリエンテーション <input type="checkbox"/> 参加者自己紹介	<input type="checkbox"/> 自らの実践を振り返り、実践案を語る

### 《 2 日目 》

2018年8月19日（日） 10：00～17：00（昼休憩12：50～14：00）

10：00～11：20	11：30～12：50	14：00～15：20	15：30～17：00
<input type="checkbox"/> 多文化社会をどう捉えるか	<input type="checkbox"/> 多文化社会コーディネーターとは	<input type="checkbox"/> 協働実践研究とは <input type="checkbox"/> 実践報告・実践研究論文の執筆にあたって	<input type="checkbox"/> 1・2日目振り返り

### 《 実践期間 》

2018年9月30日（日）までに実践案の再検討案もしくは実践の中間報告を提出ください。

### 《 3 日目 》

2018年10月27日（土） 10：30～17：30（昼休憩12：30～13：30）

10：30～16：00	16：10～17：30
<input type="checkbox"/> 実践案の再検討案もしくは実践の中間報告の検討	<input type="checkbox"/> 3日目振り返り

《 実践報告・実践研究論文（草稿）提出 》 2019年2月16日（土）まで自身の実践をベースに、実践報告・実践研究論文を提出ください。

### 《 4 日目 》

2019年2月23日（土） 10：30～17：30（昼休憩12：30～13：30）

10：30～16：00	16：10～17：30
<input type="checkbox"/> 実践振り返り	<input type="checkbox"/> 多文化社会コーディネーター論まとめ <input type="checkbox"/> 全体振り返り <input type="checkbox"/> 修了証授与

### 《 実践報告・実践研究論文（最終稿） 》

2018年2月23日（土）の実践振り返りを踏まえ、2018年3月18日（月）までに実践報告・実践研究論文（最終稿）を提出してもらいます。

※ 実践報告・実践研究論文は、多文化社会専門職機構のウェブサイトなどでの公開を前提として提出をお願いします。

○ 応募方法・参加費

提出書類：	下記①～③を作成のうえ、下記事務局まで Email で提出してください。 ① 申込書（所定の用紙に記入ください。） ② 小論文「コーディネーターとしての私の課題・私が取り組みたいこと」 （A 4 / 1 枚 1,000 字程度） ③ 実践案（A 4 / 1 枚）自由に記述してください。  ※ 申込書は多文化社会専門職機構の下記ウェブサイトからダウンロード できます。 <a href="http://tassk.org/category/news/">http://tassk.org/category/news/</a>
応募締切：	2018年7月23日（月）まで ※ 参加決定のお知らせは、2018年7月31日（火）までにいたします。
参加費：	20,000円（4日間） ※ 交通費・宿泊費など参加までに係る費用は各自ご負担ください。

○ 多文化社会専門職機構（TaSSK）について

日本社会の多文化化の進展に伴い、教育、法律、医療、行政などのさまざまな分野で既存の方法や仕組みでは解決が難しい、新たな問題が生じています。多文化社会専門職機構は2017年2月に設立後、さまざまな分野で多文化社会の問題解決に取り組む人々に学びとネットワーク形成の場を提供するとともに、「多文化社会コーディネーター」、「相談通訳者」という2つの専門職の認定事業を通じ、「多文化共生社会」の実現に取り組んでいます。

○ お問い合わせ・応募先

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-3 神田古書センター6F

多文化社会専門職機構事務局（担当：新居）

Tel : (03) 6261-6225 / Email : office@tassk.org